

# 岡山大学病院精神科リエゾンチームによる WEBを用いた個別症例に対する スーパーバイズ・システムの実現と普及について

井上 真一郎 ●岡山大学病院 精神科神経科 助教



リエゾンチーム集合写真

## 要旨

高齢者人口が急激に増加している中山間地域では、一般病院の入院患者も高齢化している。したがって、地域医療に従事する医療者は、高齢者によくみられる認知症やせん妄、うつ病などの精神疾患に遭遇する機会がきわめて多い。ただし、全国的に一般病院のわずか1割程度にしか常勤精神科医が配置されていないのが現状であり、実際には非専門家が手探りで精神科治療やケアを行っていると言っても過言ではない。このことは、医療者にはもちろん、患者にとっても大きなデメリットである。

そこで本活動では、中山間地域の一般病院と岡山大学病院精神科リエゾンチームが連携し、訪問やWEBを用いた定期カンファレンスなどを通して、個別症例に関するアセスメントや薬物治療、対応方法など、具体的なスーパーバイズ(指導・助言)を行った。なお、実施後に行った質問紙調査の結果などから、現場スタッフの高い自信度が得られた。本活動がモデルケースとなり、全国に普及することで、多くの精神科医不在の一般病院にとって大きなメリットとなる可能性がある。

## 1. 背景と目的

我が国は超高齢社会を迎え、特に中山間地域の一般病院では、入院患者の高齢化が著しい。それに伴い、地域医療に従事する医療者は、高齢者によくみられる認知症やせん妄、うつ病などの精神疾患に遭遇する機会がきわめて多くなっている。

認知症の患者は、痛みや頻尿、呼吸困難などの自覚症状を他者へ伝えることが難しく、イライラや興奮、徘徊や点滴抜去といった心理・行動症状となって現われることがある。ただし、医療者は身体症状について十分にアセスメントすることなく、「認知症患者の問題行動」と一括りに捉えてしまい、安易に抗精神病薬を投与することが多い。それによって、転倒や誤嚥性肺炎など、抗精神病薬による有害事象が発生し、結果的に入院の長期化を招くことになる。

これらを考慮すると、可能な限り精神科医のコミットが望ましいものの、残念ながら全国的に一般病院のわずか1割程度にしか常勤精神科医が配置されていないという現状がある。そこで本活動では、中山間地域の一般病院と岡山大学病院精神科リエゾンチームが連携し、訪問やWEBを用いた定期カンファレンスなどを通して、現場の診療をサポートすることを目指したものである。本活動を通して、新しいアウトリーチの仕組みを模索したい。

## 2. 活動の方法

岡山県内の中山間地域で、精神科常勤医および非常勤医が不在の中規模一般病院の中から、岡山県新見市(岡山市中心部から車

で約1時間半)内の渡辺病院と連携を行うこととし、約半年間活動を継続した。

まず、最初の3カ月は、毎週または隔週で、岡山大学病院精神科リエゾンチームのメンバー(精神科医、認知症認定看護師、精神科専門薬剤師、公認心理師)が渡辺病院を訪問した。そして、渡辺病院の医師や看護師と積極的にコミュニケーションをとり、顔の見える関係性づくりを行った。また、院内の様子を直接見ることで、病棟の雰囲気や文化、診療、ケアの質、現場での困りごとなどの把握に努めた。また、せん妄に関する講義を行い、現場スタッフの知識の底上げや均てん化を行った。

後半の3カ月は、隔週水曜の午後、WEBによる多職種合同カンファレンスを行った。具体的には、渡辺病院の入院患者でアセスメントやアプローチに難渋しているケースについて、口頭または書画カメラを用いてカルテの情報を共有した。その上で、岡山大学病院精神科リエゾンチームにおける多職種の強みやこれまでの診療経験を活かして、実践的な薬物療法や対応方法などについて、具体的なスーパーバイズ(指導・助言)を行った。これにより、現場スタッフの知識定着やスキルアップを図った。

なお、患者の個人情報には十分注意を払い、カルテ内容の共有については事前に当院医療情報部の承諾を得た。

### 3.現状の成果・考察

本活動開始時にせん妄に関する講義を行い、その前後で基礎知識を問うテストを行ったところ、全体の平均点が有意に上昇した(3.94点→5.88点  $p < .05$ )。また、介入の前後で行った質問紙調査では、せん妄の早期発見や評価、およびせん妄に対して投与された薬剤の効果や副作用の知識などの自信度に有意差を認めた。

#### 5件法による各項目の自信度調査(質問紙調査)

項目	介入前(平均)	介入後(平均)	p値
せん妄の知識	2.833	3.167	.231
せん妄の予防	2.333	2.722	.090
せん妄の早期発見	2.278	2.778	.035*
せん妄の評価	2.111	2.778	.018*
せん妄の原因同定	2.167	2.500	.187
せん妄の治療可能性の評価	2.111	2.500	.168
せん妄と認知症の鑑別	2.500	2.778	.311
せん妄とうつ病の鑑別	2.167	2.667	.070
認知症とうつ病の鑑別	2.167	2.722	.046*
せん妄のケアや環境調整	2.222	2.500	.263
せん妄についての説明	2.111	2.556	.088
せん妄の薬の知識	2.000	2.667	.029*
せん妄の症状評価	2.056	2.667	.017*

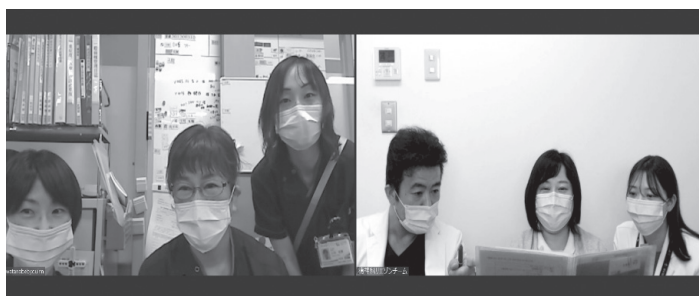
※ $p < .05$

以上より、本活動は医療者の知識やスキルの向上につながる可能性が示唆された。また、これらのことが患者の症状改善につながるなど、患者にとってのメリットもきわめて大きいと考えられる。

### 4.今後の展望

本活動の内容には新奇性があり、申請者の知る限り、全国的にも同様の取り組みはない。また、WEBが主体で精神科医などが現場に出向く必要はなく、大幅なコストダウンが図れるシステムであることから実施・継続可能性も高いと考えられる。

本活動については、2022年3月に行われた第27回中国地区GHP研究会(広島市)で発表を行い、参加者から多くの質問が寄せられるなど、医療者の関心はきわめて高かった。今後さらに内容のブラッシュアップを行い、先進的な取り組みのモデルケースとして本活動を全国に普及させたいと考えている。



WEBによる多職種合同カンファレンス